

## 5.2 重心系 (質量中心系)

重心の位置ベクトル

重心を多体系に対してきちんと言義する。

$$\text{重心 } r_c = \frac{\sum_i m_i r_i}{\sum_i m_i} \left( = \frac{\sum_i m_i r_i}{M} \right) \quad \left( M = \sum_i m_i \right)$$

質量の和

○ 全運動量の変化を考える。

$$M \frac{dv_c}{dt} = \sum_i F_i \quad (v_c = \dot{r}_c)$$

外力の和が 0 なら、

$$M \frac{dv_c}{dt} = 0$$

重心が等速運動する。  
それは全運動量が保存することと  
等価である。

○ 各粒子を重心に対する相対運動で考える。

$$r_{ic} = r_i - r_c$$

$i$  粒子の相対位置ベクトル

$$\sum_i m_i r_{ic} = \sum_i m_i (r_i - r_c)$$

$$= \underbrace{\sum_i m_i r_i}_{M r_c} - M r_c = 0$$

$M r_c$

(重心の定義より)

これを時間  $t$  で微分すると、

$$\sum_i m_i v_{ic} = 0 \text{ ————— } (*)$$

重心に対する相対座標で各粒子の運動量の和をとると 0。

• 全運動量は次のように定義されていたので、変形すると、

$$P = \sum_i m_i v_i$$

$$= M \cdot \frac{\sum_i m_i v_i}{M}$$

$$= M \cdot \frac{\sum_i m_i v_i}{\sum_i m_i}$$

$$= M v_c$$

$$= P_c$$

(物体系の)

全運動量は、

重心の運動量に等しい。

• 次に運動エネルギーを考える。

$$T = \sum_i \frac{1}{2} m_i v_i^2$$

同じ定義から、

$$= \sum_i \frac{1}{2} m_i (v_c + v_{ic})^2$$

重心と相対座標系に分けて、

$$= \sum_i \frac{1}{2} m_i v_c^2 + \underbrace{v_c \sum_i m_i v_{ic}} + \sum_i \frac{1}{2} m_i v_{ic}^2$$

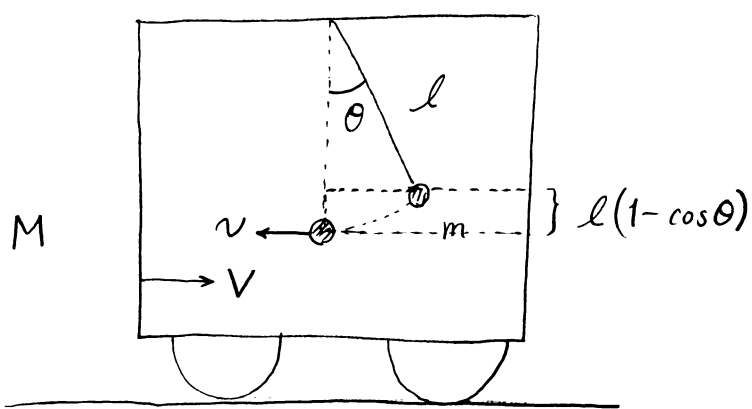
上の(\*)式より 0

$$= \frac{1}{2} M v_c^2 + \sum_i \frac{1}{2} m_i v_{ic}^2$$

$$= T_C + T_{NC}$$

全運動エネルギーは、  
 (運動量とちがって)  
 重心の運動エネルギーと  
 重心に対する相対的な運動エネルギーの和。

### 問題 1.9



多体系の保存則を考える。  
 まさつはないので外力の和は0。

問1. 運動量保存より、

$$mv + MV = 0 \quad \text{--- (1)}$$

エネルギー保存より、

$$\frac{1}{2}mv^2 + \frac{1}{2}MV^2 + 0 = 0 + mgl(1 - \cos\theta) \quad \text{--- (2)}$$

①、②より、

$$v = -\sqrt{\frac{2Mgl(1 - \cos\theta)}{M + m}}, \quad V = \sqrt{\frac{2m^2gl(1 - \cos\theta)}{M(M + m)}}$$

問2. 外力の和が0 (水平方向) なので、  
重心位置は変わらない。

最初の貨車の重心位置 (水平方向) を原点にとる。

$$\frac{\overbrace{M \cdot 0}^{\text{貨車}} + \overbrace{ml \sin \theta}^{\text{球の位置ベクトルのx成分}}}{M+m} = \frac{Mx + mx}{M+m}$$

$$\therefore x = \frac{ml \sin \theta}{M+m} \quad (\text{右方向})$$